

## ◆ 今週のコメント

- ・ 後天性免疫不全症候群の報告が、平成22年7月から9月末までに2例(40歳代, 50歳代)あり、すべてAIDS患者です。本年の累積報告数は、AIDS患者6例, HIV感染者9例となり、すべて男性です。推定感染経路は、性行為感染が12例, 不明が3例となっています。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、15.98(639例)で、7週連続で増加しています。京都市衛生環境研究所において、病原体定点における感染性胃腸炎の検体から、ノロウイルスを検出(12月 12例)しています。
- ・ RSウイルス感染症の定点当たり報告数は、0.78(31例)で、第44週(11月1日～11月7日)以降、過去5年平均値を大きく上回る状態が続いています。京都市では、先週(1.10 44例)からやや減少していますが、全国では、今週(1.33)も引き続き増加しており、今後の動向にご注意ください。年齢階級別では、1歳が最も多く14例(45.2%)で、2歳以下が90.3%を占めています。

京都市衛生環境研究所ホームページに、RSウイルス感染症についての情報を掲載しています。

○京都市感染症週報第10週・特集(RSウイルス感染症)

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000074/74152/10-syuhp.pdf>

○微生物部門ホームページ RSウイルス感染症について

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000076939.html>

- ・ 伝染性紅斑の定点当たり報告数は、0.60(24例)で、本年度で最も多くなっており、第33週(8月16日～8月22日)以降、過去5年平均値を上回る状態が続いています。本市では、4～5年ごとの流行周期が見られ、前回の流行(平成18年)から4年以上が経過しています。今後の動向に注意してください。

## ◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は、1.12(75例)で、先週(0.54 36例)に比べ2倍以上となっており、流行開始レベルの1.0を超えています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

ありません

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

| 定点              | 感染症名            | 定点当たり報告数 | 報告数 |
|-----------------|-----------------|----------|-----|
| インフルエンザ*        | インフルエンザ         | 1.12     | 75  |
| 小児科<br>(降順5位まで) | ① 感染性胃腸炎        | 15.98    | 639 |
|                 | ② 水痘            | 1.68     | 67  |
|                 | ③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 0.88     | 35  |
|                 | ④ RSウイルス感染症     | 0.78     | 31  |
|                 | ⑤ 伝染性紅斑         | 0.60     | 24  |
| 眼科              | 流行性角結膜炎         | 0.40     | 4   |

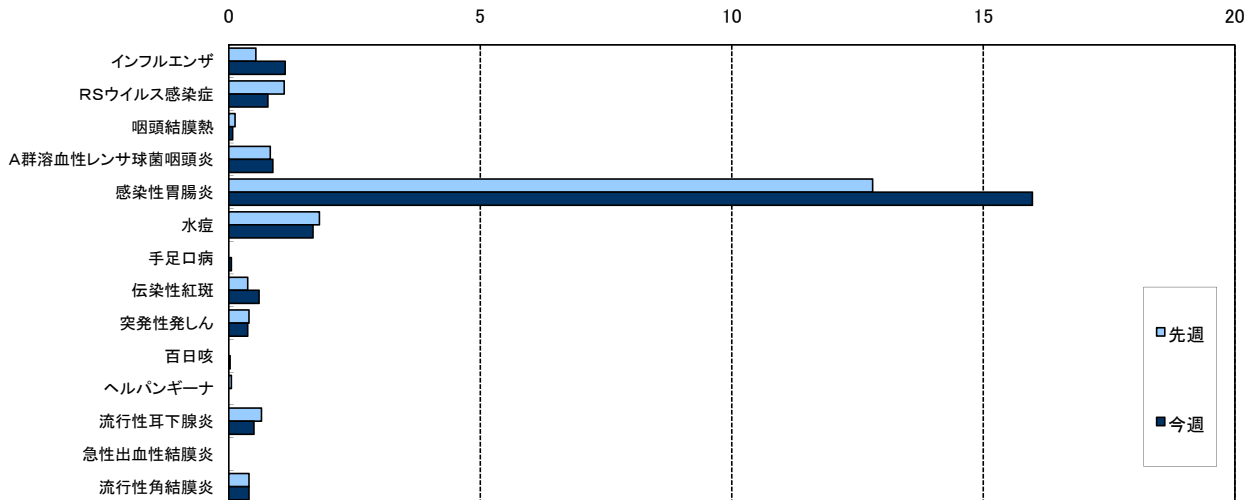
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

(注) 京都市のデータは、平成22年12月24日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

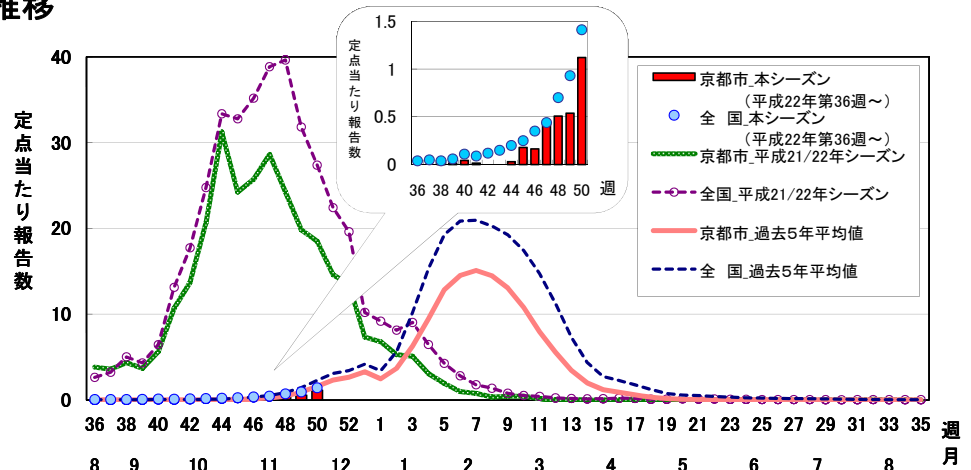
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第50週)と先週(第49週)の定点当たり報告数の比較



## 2 インフルエンザの推移

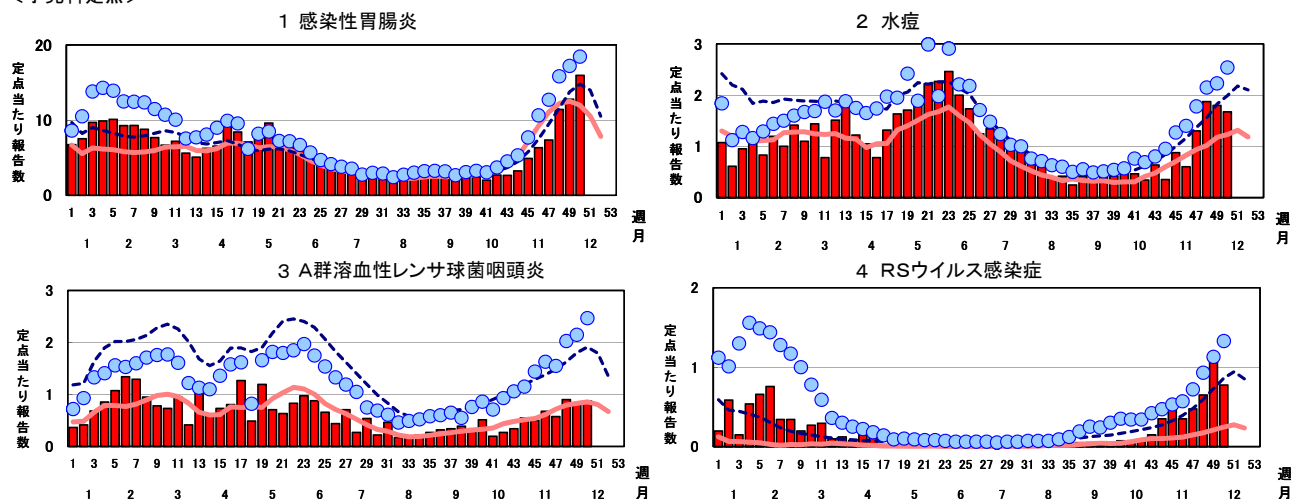
| 週                 | 報告数(例) |
|-------------------|--------|
| 第46週              | 11     |
| 第47週              | 29     |
| 第48週              | 34     |
| 第49週              | 36     |
| 第50週              | 75     |
| 累積報告数<br>(第36週以降) | 207    |



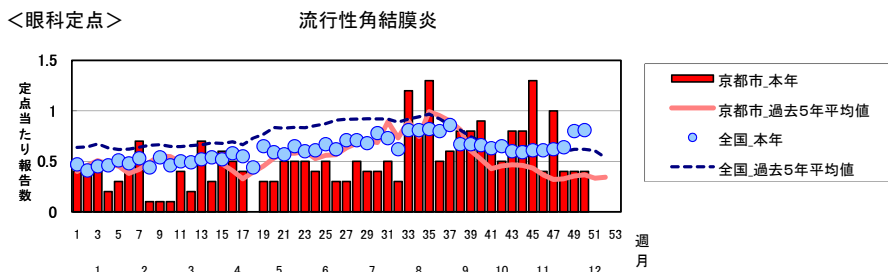
※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。

## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>

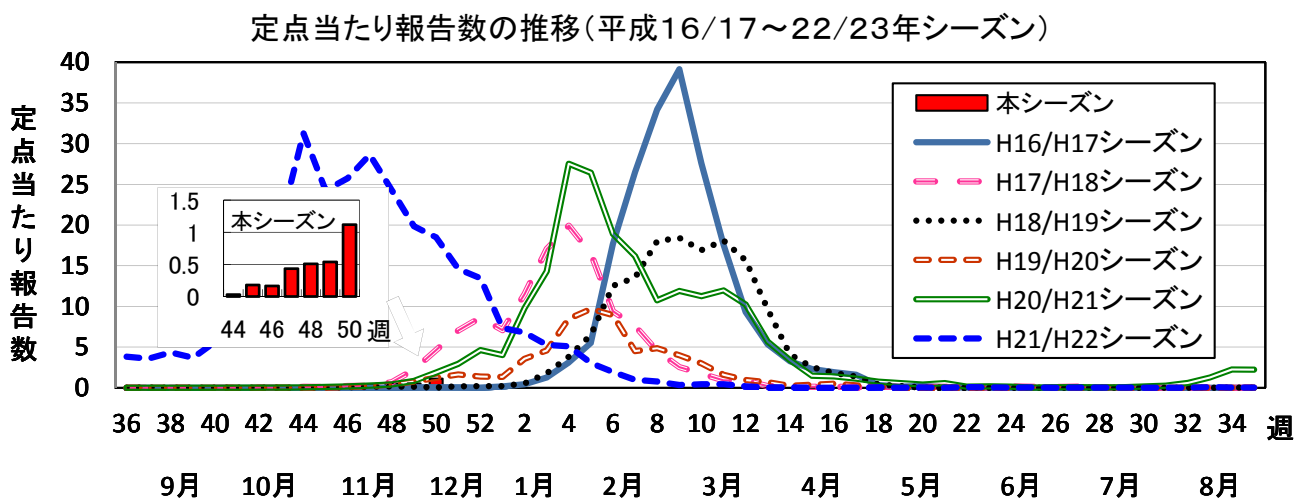


## 第50週(12月13日～12月19日)トピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は、1.12(75例)で、先週(0.54, 36例)に比べ2倍以上となっており、流行開始レベルの1.0を超えています。京都市の過去のデータ(平成16/17～21/22年シーズン)をみると、新型インフルエンザの流行のあった平成21/22年シーズンを除いて、定点当たり報告数が1.0を超えたのち、6～7週間で流行ピーク(定点当たり報告数9.68～39.15)を迎えています。今後の動向にご注意ください。

他の都道府県では、秋田、富山、茨城、福井、山梨、滋賀、鳥取、島根、岡山、広島、香川、福岡の各県で先週に比べ2倍以上となっています。また、全国の定点当たり報告数も流行開始レベルの1.0を超えています。

京都市衛生環境研究所では、今シーズン(第36週～)に、インフルエンザウイルスを、散发事例からAH3型 4例、集団事例2件からAH3型 1例、B型 3例検出しています。なお、全国のインフルエンザウイルス分離検出報告数は、AH1pdm 323例、AH3型 529例、B型 34例となっています。(平成22年12月24日現在)



定点当たり報告数1.0超の週からピークの週までの期間(平成16/17～21/22年シーズン)

| シーズン             | H16/H17 | H17/H18 | H18/H19 | H19/H20 | H20/H21 | H21/H22 |
|------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 1.0超の週           | 第3週     | 第49週    | 第3週     | 第50週    | 第50週    | 第33週    |
| ピークの週            | 第9週     | 第4週     | 第9週     | 第5週     | 第4週     | 第44週    |
| ピーク時<br>定点当たり報告数 | 39.15   | 19.91   | 18.41   | 9.68    | 27.51   | 31.35   |
| 期間               | 6週間     | 7週間     | 6週間     | 7週間     | 6週間     | 11週間    |

